

大会運営におけるルール設定の基本的な考え方

気持ちよく大会を運営するためには、大会開始前にルールを周知することが肝要です。

1. 時間切れにまつわる規定

- ・日本囲碁規約では時間切れに関する規定がなく、標準ルールは未制定となっている。
- ・プロ棋戦では、立会人の下、秒読み付きの対局が想定されており、トラブルは想定されていない。
- ・アマ棋戦では、時間切れとなる対局が前提となっている。→プロ棋戦とは事情が異なる。

2. アマ棋戦における留意点

- ・日本棋院公認審判員認定講習会資料では、以下の事項などを定めている。

<日本棋院公認審判員認定講習会資料 主な内容>

1. 審判員としての心構え（抜粋）

2. 審判員は、大会参加者に対して、「日本囲碁規約」の冒頭“この規約は対局者の良識と相互信頼の精神に基づいて運用されなければならない”の精神を遵守することを周知徹底してトラブルを未然に防ぐよう努めてください。
6. 審判員は、その職務を遂行するために、大会運営に妨げとなる行いをする選手に対して「注意」を行う権限を有し、従わない選手には「失格」を宣告する、と云った毅然とした態度で応じてください。

2. 標準的統一見解（抜粋）

以下に示す事項は、アマチュア囲碁大会等でのトラブルを基に「公認審判員認定委員会」で討議・決定したものであり、今後、同様なトラブルが発生した際、公認審判員が同一の裁定をくだすための「標準的統一見解」を示すものです。

Ⅱ 対局時計

① 「対局時計の使用について」

- ・対局時計の使用を明示してある大会において、双方が合意して時計を使用しない場合は、規定の時間が過ぎても対局が終了しなければ、判定による勝敗結果を受け入れることを、予め確認することとします。

② 「対局時計を置く位置について」

- ・対局時計を置く位置は「白番」の人が決めることとします。

③ 「対局時計のボタンを押す手について」

- ・時計を押す手は盤面に着手した手で押すこととします。

④ 「ボタンを押す手は着手が完了してから」

- ・着手を完了する前にボタンを押してはいけません。
- ・ただし、石を取り上げる場合は着手後時計を中断して、全部の石を取り上げた後で時計の中断を再開することを原則とする。

⑤ 「対局時計の押し忘れ」

- ・対局者が時計のボタンを押し忘れている場合、審判員或いは対局者間による指摘は可とします。

⑥ 「対局時計の停止」

- ・対局の停止時（駄目詰めの前）に時計を停止するのか、駄目詰め後に時計を停止するのか、参加者に事前に周知徹底してください。

また、対局中にトラブルが生じた場合は、一旦時計を停止して、対処することとします。

Ⅲ 持ち時間

- ・「秒読み」が付されておらず、「時間切れ負け」が明示されている大会において、自己の持ち時間が切れた場合には（形勢・理由にかかわらず）負けになります。

3. よくある質問

質問	基本	富山県囲碁大会 基本ルール	備考
途中で裾に触れて復旧困難になったらどうする	・両負け 「元の着点に石を戻すことを対局者が合意できないとみなす」	(故意でない場合) ・両対局者および審判員で可能な限り復元し、その場面から再開する ・復旧困難な場合、復旧困難の原因を作ったものが反則負け (故意の場合) ・反則負け	日本囲碁規約および逐条解説第十三条-2 対局中に盤上の石が移動し、かつ対局が進行した場合は、移動した石を元の着点に戻して続行する。この場合において対局者が合意できない場合は、両負けとする。 <解説> 元の着点に石を戻すことを対局者が合意できないとき、あるいは元の着点にすでに石が存在、または存在できない石になるなど、規約上元へ戻すことが不可能な場合は、両対局者に責任ありという事で両負けとなる。
対局時計の押し忘れの対局者以外のアドバイスを認めるか	・審判員あるいは対局者間による指摘は可	・対局相手のみ可とする。対局相手以外のアドバイスは助言とみなす。	審判員あるいは対局者以外のアドバイスは助言とみなされます。
途中でトイレに行ったとき時間をどうする	・対局を停止しない (持ち時間を減少)	・トイレ、携帯電話、急病等にかかわらず、対局時計を止めない。	時計を止めてよいとの主張は、標準的な扱いではありません。ローカルルールです。
着手した手で時計を押さない場合の対応	・審判員の判断で「注意」「失格」	・着手した後、着手した手で手合い時計を押すものとする。 着手した手で時計を押さない場合は、対局相手からの審判への申し出により、 1度目：「注意」 2度目：「失格」 を審判は宣告することができる。	トラブルを未然に防ぐため、大会開始前に扱いを明確にしておくべきです。
相手の時間切れを狙って良識と相互信頼の精神に反する着手が明らかであった場合	・審判員の判断で「失格」	・審判は当該選手に「失格」を宣告することができる。	トラブルを未然に防ぐため、大会開始前に扱いを明確にしておくべきです。
アドバイスに基づき申し出た人の処遇	・対局相手からの申し出があった場合、助言に基づき申し出た人は失格	・対局者への助言は一切してはならない。 ・対局者の関係者で助言した者は、審判が会場から退出を命ずることができる。	審判員あるいは対局者以外のアドバイスは助言とみなされます。